

蝶ヶ岳山行報告

【山行日】2015年5月2日(土)～3日(日)

【集 合】 岩舟支所P AM 3:00

【費 用】 マイカー1台 : 14,300円

【メンバー】 CL:鈴木、大西、香川、関、
谷口、松舘

5月2日(土) 快晴 三俣登山口から「まめ
うち平」経由で蝶ヶ岳へ登り蝶ヶ岳ヒュッテ泊
岩舟支所 P3:00＝三俣 P6:10/6:40～まめうち
平 9:00～蝶ヶ岳ヒュッテ 12:10/13:15～蝶ヶ
14:05/14:20～蝶ヶ岳ヒュッテ 15:15

今年のゴールデンウィークのメイン山行として、
残雪の蝶ヶ岳を計画した。



5連休の初日なので、三俣の駐車場に車を止められるか心配し出発時間を1時間早めたが、三俣駐車場は満車で、路駐の車が数台あった。念の為駐車スペースが無いか確認すると、トイレの前になんとか1台止められるスペースを見つけ駐車する。車を止められれば一安心、朝食を食べたりトイレに行ったり、ゆっくり準備して出発する。ゲートを超えて、林道をさらに奥に進むと登山指導所がある三俣登山口に到着。係の人に登山届を提出し、登山道に入って少し行くと前常念岳への分岐があり、直進して

蝶ヶ岳へ向かう。本沢を橋で渡り、少し登るとカ水の水場がある。ここから先は急登になるが、雪は全くなくアズマイチゲやキクザキイチゲの花が咲き、疲れを癒してくれる。1700m位の地点で、左の尾根に直角に曲がるように登り傾斜がさらにきつくなる。前常念岳を右に見ながら急斜面を登り、雪が所々に残るようになると傾斜が緩やかになり、まめうち平に着く。今年は雪解けが早く、雪が殆どなく丸太のベンチが使えたのには驚いた。ここから先は雪道となるので、アイゼンを装着する。緩やかな雪道を登って行くと、蝶沢をトラバースして渡り、しばらくはトラバース気味に急傾斜を登って行く。



すぐに樹林帯の急登となり、疲れが出てペースが上がらない。何回か休憩をとりながら登ると、ダ

ケカンバの疎林になり、山頂からの尾根が見えてくる。緩やかな雪の斜面を登り上がると、ハイマ



ツの尾根に出てアイゼンを外す。尾根を進んで、テント場の下を通ると間もなく蝶ヶ岳ヒュッテに着く。目の前には梓川を挟んで、槍ヶ岳から穂高連峰の大パノラマが広がり「ウワ～～凄い、こんな素晴らしい景色は初めて。」と歓声上がる。ヒュッテの受付を済ませ、部屋に荷物を置いて昼食を食べに外に出る。ベンチでラーメンを作り、大パノラマを楽しみながら最高のランチをいただいた。余分な荷物をヒュッテに置き、蝶ヶ岳までト

レッキングに出かける。稜線は雪がまったく無く、夏山を歩くように楽に歩ける。前方には槍ヶ岳や常念岳、大天井岳が、真横には穂高連峰がドッシリ座り、振り返ると焼岳や乗鞍岳の大パノラマが広がる。

これほど贅沢な眺望が他に有ろうかと思えるくらい豪華な景色が目の前にある。蝶ヶ岳の頂では、皆さん景色に酔いしれて動かない。

我輩は、お酒が恋しくて「戻ろう」と促しても「せっかく登ったのだからもっと景色を眺めたい」と無視される。「明日の朝は、朝日が当た

ってもっと素晴らしから」となだめて、やっと腰をあげる。ヒュッテにもどり、宴会の支度をして外のベ



ンチに集合する。絶景を眺めながら飲むビールは最高に旨い。竹輪にキュウリ、チーズやタケノコとフキの煮物など美味しくいただき、至福のひと時。部屋に戻ると、間もなく夕食となり、お酒を買って食堂へ。夕食の後は、夕日を見に全員でまた外に出る。北穂と奥穂の間に日が沈むが、雲が悪さして夕日を隠してしまう。皆であーだの、こーだの言いながら待つこと20分、結局赤く染まらず夕日ショーは幕切れ。この後は安曇野の夜景を見る予定だったが、

我輩は睡魔に襲われ限界。そのまま朝まで眠りに就いてしまった。

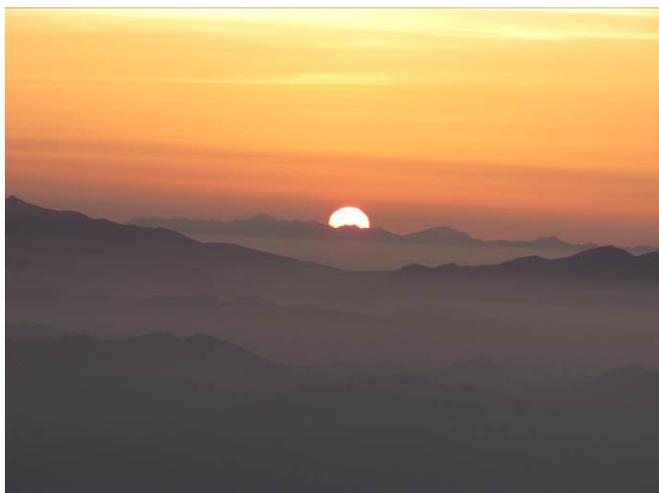
5月3日(日) 快晴 蝶ヶ岳ヒュッテから、まめうち平経由で三俣登山口へ下山

蝶ヶ岳ヒュッテ 6:50～まめうち平 8:25/8:40～三俣登山口 10:10＝ほりで一湯 10:40/11:40＝

回転寿司「あっちゃん」12:00/12:50＝岩舟支所 P15:20

朝は4時過ぎに目をさまし、全員でご来光を見に山頂へ向かう。本日の日の出は4時50分頃らしい。山頂に行くと、すでに沢山の人がカメラを設置して待機していた。我々も富士山を撮ったり、穂

高や槍を撮ったりしながら日が昇るのを待つ。東の空が一段と明るくなり、日の出ショーが始まる。



昨夜の夕日と違い、すっきりと真丸の日の出を拝むことが出来大満足。その後も山や、全員の記念写真を撮りまくったが、時間を見ると5時20分。朝食は2回目の6時からにする予定だったが、1回目に間に合いそう。急いでヒュッテに戻り、食堂に並ぶとなんと一番前だった。一番で朝食を済ませ、出発の準備をするが、トイレの数が少なく長蛇の列に並ぶ。支度を整え、外に出てストレッチを行い大パノラマを目に焼き付けて、名残惜しいが下山開始。キャンプ場にともう絶

景は見えなくなる。ハイマツの尾根を降りて、アイゼンを装着し雪道を降りて行く。蝶沢への急な下りで、S嬢のストックが折れてしまう。バランスを崩した際、ストックに横の加重を掛けた為下の細い部分がポッキリと折れた。折れたストックを預かり、我輩のストックを代わりに使わせる。蝶沢をトラバースし少し登って急降下すると、傾斜が緩くなりアイゼンを外す。皆さんはそのまま、まめうち平までアイゼンを付けて行き、まめうち平でアイゼンを外した。チョコパイを食べて水分を補給し、ここからの下山に備える。ここからは雪が無いので、気持ちが楽に



下ることが出来る。K川さんやT口さんは、花を愛でる余裕ができ、花の名前を覚えながら写真に収めて行く。でも10歩歩くと直ぐに花の名前を忘れてしまい、何回も聞き返す。花を楽しみながら下るとゴジラの木に着き、小休止をとる。ここから一気に下り、無事に三俣登山口に着く。下山の記念写真を撮り、湧水を見つけて「この水は飲めるのかな？」と話していると、管理人の方が「飲めるどころか、家に持ち帰らないと損するくらい美味しい水だよ」と言うので、皆さんペットボトルの水を捨てて入

れ替える。帰りに、ほりで一湯「四季の郷」で汗を流し、安曇野インター手前の「あっちゃん寿司」で美味しい寿司を食べて帰路につく。帰りの高速道も順調で、予定よりも早く着き、最高の眺望を堪能した蝶ヶ岳山行が終了した。